

「食べる」

日時：2017年 11月19日（日） 13：30～15：30

（開場：13：00）

場所：大阪大学大学院人間科学研究科

本館 キャンピホール（51講義室）

参加費：無料（申し込み先着順 定員150名）

※中学生・高校生のご参加も歓迎いたします

※終了後、本館内でティーパーティを行います。（15:30～16:30予定）

ご来場の皆様と講演者らとの歓談のお時間といたします。



「食べる」の中の「学び」

行動生態学講座 行動生理学研究分野 八十島 安伸 准教授



「フローレス島でごちそうを食べる」

基礎人間科学講座 人類学研究分野 中川 敏 教授



「ツールとしての炊き出し

—災害救援における食の意味—

未来共生学講座 共生行動論研究分野 渥美 公秀 教授

講演要旨は裏面を
ご覧ください

お申込み・問い合わせ先：mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

TEL: 06-6879-4050（直通）

主催：大阪大学大学院人間科学研究科 附属 未来共創センター
協力：大阪大学21世紀懐徳堂

「食べる」の中の「学び」

行動生態学講座 行動生理学研究分野 八十島 安伸 准教授

私たちの誰もが、毎日「食べる」を経験しています。好きなものを「食べる」、嫌いなものは「食べない」。おいしいものを少しだけ「食べる」、おいしいものを「食べ過ぎてしまう」。私たちの生活には、そのようなさまざまな「食」がありますが、それらにはさまざまな形の「学び」があることが分かってきました。今回は、動物やヒトで見られる「食」における「学び」の例を紹介しながら、「食」について多面的に観る方法について考えてみたいと思います。

「フローレス島でごちそうを食べる」

基礎人間科学講座 人類学研究分野 中川 敏 教授

わたしの調査地、インドネシア、フローレス島のエンデと呼ばれる人びとについてお話しします。エンデの村落社会は(市場経済の影響は少なく)贈与経済を基盤に成り立っています。市場経済は人と人とを切り離す機能をもっていると言えましょう。お金を払って、商品を受けとれば、交換にかかわった人たちとの関係はなくなります—お店の人と(購入が故に)仲良くなるわけでもなく、お米の作り手に思いをはせるわけでもありません。それに対して、贈与は人と人とを結びつけます。ここではエンデの食事に焦点を絞って、食べることでどのように人と人とを結び付けるかをお話しします。

「ツールとしての炊き出し —災害救援における食の意味—

未来共生学講座 共生行動論研究分野 渥美 公秀 教授

災害時には、避難所でも仮設住宅でも近隣の人々やボランティアの手によって炊き出しが行われる。もちろん、被災者の皆様の空腹を満たすために炊き出しが行われる時期もある。しかし、災害後かなり落ち着いてからも炊き出しは続く。もはや、空腹を満たすことが主たる目的ではない。食事を介して、被災された方々の間でのコミュニケーションを広げるためであったり、さらには、安否確認につなげていくために炊き出しが行われたりする。ここでは、ボランティアによる炊き出し活動に焦点を当てて、緊急時から復旧へと進む災害救援における食の意味について検討しながら、ボランティアは何を支援しているのか、ボランティアによる支援とは何なのかを話したい。

【アクセス情報】

大阪大学吹田キャンパス
人間科学研究科
565-0871
大阪府吹田市山田丘1-2

※公共の交通機関をご利用ください。

- ・大阪モノレール 彩都線「阪大病院前」下車
- ・路線バス「阪大医学部前」下車
- 茨木方面から 近鉄バス
「阪大本部前」(24系統) 行き
千里中央方面から 阪急バス
「阪大本部前」(164系統、171系統) 行き
「茨木美穂ヶ丘」(103系統、105系統) 行き

